

JOIは、昨年8月に続き2回目となる合宿研修を今月7～8日に一泊二日で、熱海の研修施設において開催しました。1回目は米国エネルギー流通に携わるプロフェッショナルの方々に向けて専門性の高い内容で開催しましたが、今回は「プロジェクトファイナンス（PF）の基本」をテーマ軸に据えて、新しくPFに携わる方や、最新の動向を踏まえて基本を学び直したい方などを対象に、比較的向き合いやすい内容に仕立てました。おかげ様で当初定員を上回る申し込みを頂き、最終的には14社に及び会員企業から参加頂きました。そのほかにも今月は、資金調達の視点からPFを掘り下げて学ぶ企業研修を会員企業2社（メーカーとユーティリティ向け）から申し込み頂き、また米国アンシリャーサービス市場に関する企業研修（総合商社向け）も行いました。

今月展開させて頂いたサービスメニューの動向から我々が学ぶことは多くあります。JOIはセミナーやビジネス情報誌などで専門的な玄人向けの内容を取り扱うケースが多いですが、会員企業からの要望をうかがいますと、実は基本的な内容を改めてしっかり学びたいというニーズも非常に高いと感じます。こうした声に応じながら、今後ともJOIに所属する弁護士事務所やシンクタンク等の専門家の高い知見と会員企業の関心をマッチアップさせて、情報価値の創造に努めてまいります。セミナー、企業研修や合宿アレンジなどに関する要望があればいつでもご相談ください。

常務理事 田丸伸介

海外投融資

Vol.32 No.2（通巻188号）
2023年3月24日発行

発行
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人
東 浩
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311（代）
URL. www.joi.or.jp

制作協力
(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより 初虹の彩り

コロナ禍が沈静化した今年にはブラジルのリオをはじめとする各地のカーニバルや欧州各地の火祭りなど春を祝う祭りが開催されました。ビジネスに目を向けると、脱炭素、DX、新素材分野など各展示会は活況で、ニューノーマルでの新たな事業機会創出に取り組む参加者の熱量の高さを感じさせられます。

展示会において量子コンピュータの紹介を目にするようになりましたが、各種情報ソースでは、AIの進化について変革期として取り上げられています。チャットボットが典型的な会話から脱却し、より人とコミュニケーションをとっているように感じられるだけではなく、プログラミングをリクエストに応じて提示できるところが、将来は、自己の損得に応じて、自主改良プログラムで進化する機能をもつのではなど、期待と不安の高まりをみせております。

音声認識も向上し、簡易な対応であれば口頭で物事が進む昨今、指向性マイクの活用で、感情的な咳きを社交的なセリフに翻訳してくれる肩に乗せるインコ秘書^{注1}の商用化も近い未来のように感じられます。

言語とAIの組み合わせは50年以上前のEliza^{注2}から語られますが、各Webページで提供されているチャットボットは最近でも2ステップぐらいで会話が行き詰まり、ぎこちなさを承継していました。昨今話題のAIチャットボットは自然なやりとりが予想以上に継続することにより、驚きを与えています。

ただし、一方で、情報の質は担保されていないという指摘もあり、回答を調べると裏づけがとれないこともそれなりにあります。それでも肯定的な見方が多いのは、インターフェースの円滑さで内容は別として高く評価しがちな人間の感性と結びつきやすいためと推察されます。アジャイル型の逐次改善を目指す開発環境では、この対話型チャットボットを巡る寛容な現象は、「システムの要件定義」においてインターフェースの高度化を企図することにより、ユーザーに育ててもらいやすいシステムになる可能性を示唆しているようにも感じられます。

また、AIとの距離感としては、シンギュラリティが意識され、仕事を奪われる不安があるような声もありますが、豊かな創造性を広げる方向で業務も要件定義し、AIを相棒として任せるべく如何に活用しようかと手ぐすね引いて待つ姿勢が、技術進化の成果を享受できる幅を広げられると思われれます。

晩春の季語を含む「初虹の彩り」(造語です)の解説をチャットボットに訊くと「虹が出現する直前の短い時間帯にみられる美しく鮮やかで儚さがある色彩」といった創造的コメントでした。アルゴリズムに基づいた計算結果を自然言語処理したデータのアウトプットに過ぎないはずなのに感受性をくすぐられてしまう筆者は、もう少しリテラシーの訓練が必要そうです。

専務理事 東 浩

注1：星新一「肩の上の秘書」をご参照ください。

注2：ジョセフ・ワイゼンバウムにより1960年代に開発された自然言語処理の元祖のプログラムです。